



## Instagram 連動企画 青春ビルドプロジェクト 「高校生がみた土木の世界」



ラブプラブ土木ー！みなさんこんにちは！土木学者のデミー博士です。今月号は、DOVOC通信ながさきの記念すべき50号となります。記念すべき50号で紹介するのは、青春ビルドプロジェクト「高校生がみた土木の世界」です。現在、我々の命を暮らしを守る土木・建設業を憧れの職業ナンバー1にするため土木アクションを行っていきます。巨大重機で工事現場をドライブしたり、巨石をダイナマイドで爆破したり、ワクワクする体験イベントを行ったり、立入禁止場所での現場レポートのYouTube配信などを行っています。今までに1万人以上のかたがイベントに参加しています。活動が話題を呼びメディアにも1000件以上取り上げられています。今回は、最近話題になっている青春ビルドプロジェクトを紹介します。青春ビルドプロジェクトは、普通科高校写真部と連携して写真とおして土木の魅力発信するプロジェクトです。連携している高校は、諫早高校写真部（顧問：小川尚先生）、大村高校写真部（顧問：高比良奈々先生）、長崎東高校写真部（顧問：黒田佳孝先生）。プロジェクトでは、生徒に「はじめみた土木現場」で働く人、重機、風景など気付いたこと、驚いたこと、感じたことなどをキリ撮ってもらい、その写真やその感想を情報発信することで市民に土木の関心をもってもらう活動です。高校生の撮影した写真は、フィルタがかかっているため市民に近い目線で土木を発信できます。また、写真やその感想は土木で働く方々への活力剤となり、失いかけた仕事への誇りを取り戻すきっかけになります。さらにプロジェクトをおして生徒に土木の魅力を伝えることができます。プロジェクトは2022年度から実施しており、2022年度は長崎県のみで行っていましたが2023年度は、大分県（大分上野丘高校）、佐賀県（唐津西高校、武雄高校）と拡大して実施しています。ここでは2023年度に国土交通省が長崎県内で整備を進める道路、河川、港湾の工事現場において諫早・大村・長崎東の生徒が撮影した写真をご紹介します。生徒が「はじめみた土木」をどのように感じ、どのようにキリ撮ったのかを感想とあわせてお楽しみください。紹介しきれなかった写真や大分県、佐賀県内で撮影された写真は、青春ビルド公式Instagramで公開していきますのでぜひチェックしてみてください。フォローもよろしくお願いします。今日も一日ご安全に！

## 労働安全衛生教育を推進。 建災防長崎県支部が長崎工業高校と連携協定。



建設業労働災害防止協会長崎県支部（谷村隆三支部長）が2022年8月に長崎工業高等学校と『相互連携による労働安全衛生活動の推進に関する協定』を締結した。労働災害防止への理解と啓蒙啓発が目的。長崎県の建設業における2021年の休業4日以上死傷災害が236件のうち20歳以下が17%を占めた。要因別では、墜落・転落災害が33%を占め、そのほとんどが安全帯の未使用が原因。谷村支部長は「建設現場に新規入場する前に安全衛生に関する基礎知識を学ぶことは、従事者の健康と安全を守るうえで大変重要。建災防では全国的にも初めての試みとなり、将来的には他の県内高校にも拡大していきたい」と話した。

## 長崎県建設業協会が工業系学科を有する県内の 県立学校6校に「フルハーネス型安全帯」を寄贈。

長崎県建設業協会（根べ真吾会長）は2022年10月、実習活動や人材確保に役立たせてもらうため、工業系学科を有する県内の県立学校6校に「フルハーネス型安全帯」を寄贈。



きっかけは2022年8月に長崎県建設産業団体連合会と学校関係者で行った「産学官連携建設業人材確保育成協議会」意見交換の中で、学校関係者からフルハーネスなどの実習教育教材不足を聞き取ったことで実現。

各学校の建築・土木系学科では、仮設基礎実習で実施する足場の組立、解体などの高所作業で安全帯を使用していたが、2019年の規則改正によりフルハーネス型の墜落防止用器具が義務化し、生徒の人数分の確保に苦慮していた。

これを受け同協会ではこれまでの人材確保への取り組みに感謝し、西日本建設業保証（株）の助成金を活用してフルハーネス96本を寄贈した。

### 長崎県建設業協会 根べ会長 コメント

「これまで『きつい』『きたない』『きけん』の3K業種といわれてきたが、週休2日制導入や残業時間の規制、ICTやDXの推進により女性への入職も大きく拡大してきている。『給与』『休暇』『希望』の新しい3Kを目指している。互いに理解を深めこれからの県内建設業を支えていただく機会になれば」

### 長崎工業高校 北島弘明校長 コメント

「2017年度に県内工業高校の建築・土木系の県内就職状況は36%だったが、21年度は57%と大きく増加した。今後も地元長崎の建設業界で活躍し、地域の未来を支える生徒の育成に取り組んでいきます」

### 大村工業建築科 2年 猪俣侠太さん コメント

「頂いたフルハーネスを正しく安全に使用し、誰一人けがをすることがないように、これまで以上に安全第一の意識を深くもって実習に臨みたい」

## 贈呈されたハーネスを付け実習に励む学生

